



畑作・野菜・花き生産情報 第5号

令和5年8月21日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎ 台風や大雨に備え、ほ場や施設周辺にある排水溝の点検や整備のほか、施設への雨水流入を防ぐために土のうを設置するなどの排水対策を徹底しよう！
- ◎ 大豆病害虫（紫斑病やマメシンクイガ）の防除を徹底しよう！
- ◎ 大豆の落莢を防ぐため、乾燥しているほ場では、うね間かん水をしよう！
- ◎ 高温・乾燥の影響を受けている品目が一部ありますが、野菜の生育はおおむね順調です。品目に応じて病害虫防除を徹底しよう！
- ◎ 秋ギクの生育はおおむね順調です。収穫まで適正な温度管理を徹底しよう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

- ア 生育は順調で、開花期は1週間程度早まった。
- イ 一部、倒伏が発生しているほ場が見られる。
- ウ 立枯病やべと病、食葉性害虫による食害が見られる。

表－1 大豆の生育状況（8月10日調査）

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	5/25	6/5	7/21	94.2	60.1	13.3	2.4
	(<small>平年差・比</small>)	(±0日)	(±0日)	(6日早)	(103%)	(104%)	(-0.3)	(-0.4)
	平年	5/25	6/5	7/27	91.8	57.5	13.6	2.8
野菜研究 所 (六戸町)	本年	5/15	5/23	7/20	111.3	65.3	14.1	3.2
	(<small>平年差・比</small>)	(±0日)	(2日早)	(6日早)	(104%)	(98%)	(±0.0)	(+0.5)
	平年	5/15	5/25	7/26	106.8	66.8	14.1	2.7
藤崎町 (西中野目)	本年	6/1	6/10	7/23	95.4	-	12.2	-
	(<small>平年差・比</small>)	(2日早)	(3日早)	(6日早)	(110%)	-	(-0.9)	-
	平年	6/3	6/13	7/29	87.0	-	13.1	-
五所川原市 (金木町嘉瀬)	本年	6/13	6/21	7/31	74.3	-	11.9	-
	(<small>平年差・比</small>)	(6日遅)	(6日遅)	(±0日)	(93%)	-	(-0.7)	-
	平年	6/7	6/15	7/31	79.7	-	12.6	-
十和田市 (切田)	本年	6/5	6/12	7/27	124.6	-	14.1	-
	(<small>平年差・比</small>)	(2日早)	(3日早)	(8日早)	(149%)	-	-	-
	平年	6/7	6/15	8/4	83.5	-	-	-
	前年	6/12	6/20	7/31	97.1	-	14.7	-

注) ①品種は「おおすず」

②平年値は農林総合研究所が過去17か年、野菜研究所が過去16か年、藤崎町が過去12か年、五所川原市が過去10か年、十和田市が過去22か年の平均値

(2) 今後の留意点

- ア 立枯病発病株を確認したら、速やかに抜き取りを行い、ほ場外で処分する。
- イ 紫斑病は、開花期後20～40日の間に防除する。なお、チオファネートメチル剤、ベノミル剤、アゾキシストロビン剤に対する耐性菌が県内にも分布しているので、薬剤の選択には注意する。アゾキシストロビン剤の効力が低下していないほ場では、QoI剤（FRACコード：11、アミスター20フロアブル等）の使用を1作につき1回までとする。また、耐性菌の新たな発生や発生地点の拡大を回避するため、連年使用せず、2～3年に1回の使用にとどめる。
- ウ ツメクサガ、ウコンノメイガ等の食葉性害虫の早期発見・早期防除に努める。
- エ マメシクイガの防除を次により徹底する。

散布時期	薬剤の種類
8月第6半旬～9月第1半旬に1回散布（ただし、多発生の場合は、8月第5半旬に1回目、7日後に2回目を散布）	トクチオン乳剤、パーマチオン水和剤、トレボン乳剤、トレボンMC、トレボン粉剤DL、アミスタートレボンSE、アディオオン乳剤、アグロスリン乳剤、モスピランSL液剤、モスピラン顆粒水溶剤、プレバソンフロアブル5、ベネビアOD、グレーシア乳剤、トライトレボン粉剤DL、トレボンスカイMC
9月第1半旬に1回目、その7日後に2回目を散布	エルサン乳剤、スミチオン乳剤、ダーズバン乳剤40、エルサン粉剤2、ダイアジノン粒剤5、スミトップM粉剤

注) 登録内容は令和5年8月9日現在

- オ 落莢を防ぐため、乾燥しているほ場では、うね間かん水を行う。
- カ 台風や大雨に備え、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの排水対策を徹底する。

2 小麦（は種の準備）

- (1) は種が早いと生育が進み過ぎて雪腐病の発生を助長し、遅いと越冬前の生育量が不足するので、は種適期である9月15～25日に確実に種できるようなほ場を準備する。
- (2) ほ場の団地化を図り、明きよや弾丸暗きよなどで十分な排水対策を行う。
- (3) 土壌分析を行い、酸度矯正が必要な場合は、苦土石灰等により土壌改良を行う。
- (4) 紅色雪腐病の保菌種子の持ち込みによる被害を防止するため、薬剤による種子消毒を行う。

野菜

1 ながいも

(1) 生育状況

- ア いずれの調査地点も地下部は平年を上回っており、生育は順調である。
- イ 病害虫は、葉渋病・炭疽病、カスミカメムシ類の発生が見られる。

表-2 ながいもの生育状況 (8月10日現在)

調査地点	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つるの ネット頂 到達日(月 日)	8月10日			
					茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
野菜 研究所	本年 (<small>平年差・比</small>)	5/25 (±0日)	6/23 (1日早)	7/14 (6日早)	267.5 (106%)	47.7 (143%)	309.1 (273%)	42.3 (125%)
	平年	5/25	6/24	7/20	253.2	33.4	113.4	33.8
	前年	5/25	6/26	7/17	330.0	32.0	76.4	33.5
五戸町 上市川	本年 (<small>平年差・比</small>)	5/2 (9日早)	6/14 (1日早)	7/7 (1日早)	— (—)	52.3 (113%)	232.3 (122%)	36.4 (100%)
	平年	5/11	6/15	7/8	—	46.1	190.9	36.3
	前年	5/8	6/18	7/7	—	43.8	235.5	41.4
東北町 子ノ鳥平	本年 (<small>平年差・比</small>)	5/5 (7日早)	6/1 (5日早)	7/10 (±0日)	— (—)	39.8 (103%)	230.1 (124%)	41.0 (113%)
	平年	5/12	6/6	7/10	—	38.8	186.1	36.4
	前年	5/9	6/8	7/10	—	43.3	224.4	42.7

- 注) ①平年：野菜研は平成30～令和2年の3か年の平均値(種いもの頂芽の処理方法が異なるため参考値)
五戸町は平成14～令和4年の21か年の平均値、東北町は平成25～令和4年の10か年の平均値
- ②種子：野菜研は園試系6の1年子(90～110g)ガンク切除(ガンク切除時期は植付30日前、令和2年までは植付15日前の頂芽切除)、五戸町は庄司系の2年子(120～150g)ガンク切除、東北町は庄司系の1年子(50～80g)頂芽付
- ③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)、五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)
東北町は畦幅110cm×株間23cm(3,953株/10a)

(2) 今後の留意点

- ア 8月20日以降の追肥は、茎葉の過繁茂や平いもの発生を助長するおそれがあるため行わない。
- イ 葉渋病、炭疽病の防除を徹底するとともに、ナガイモコガ、アブラムシ類、ハダニ類などの害虫の早期発見・早期防除に努める。
- ウ 採種ほ場では、ウイルス病の伝搬を防ぐためにアブラムシ類の防除を徹底する。
- エ 台風など強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- オ 植溝が「穴落ち」した場合は、速やかに修復する。

2 にんにく

(1) ほ場の準備

- ア イモグサレセンチュウなどの病害虫が発生していないほ場を選ぶ。
- イ 外部からの土壌病害虫の持ち込みを防ぐため、作業は種苗増殖ほ場から行う。
- ウ 堆きゅう肥や土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用し、必要量以上に投入しない。
- エ 緑肥は、少なくとも植付けの30日前にすき込み、石灰窒素を10a当たり40kg施用し、ロータリー耕を3回程度行う。
- オ 転作田など排水の悪いほ場では、過湿による病害の多発や生育不良を防ぐため、

明きよの設置やサブソイラによる弾丸暗きよなどの排水対策を実施するほか、高うね栽培とする。

(2) 種子の準備

- ア イモグサレセンチュウが発生したほ場のりん球は、種球として絶対に使用しない。
- イ ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調整はできるだけ植付け直前に行う。
- ウ チューリップサビダニ、イモグサレセンチュウ、黒腐菌核病を対象とした種子消毒を徹底する。
- エ 種球の保管中に20℃以下の低温に遭遇すると萌芽・発根が早まるため、室温をおおむね20℃以下にならないように管理する。

3 夏だいこん

(1) 生育状況

- ア は種期が平年より3日遅く、7月中旬以降の高温・乾燥の影響で、生育は遅れている。
- イ 病害虫の発生は見られない。

表-3 だいこんの生育状況（8月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	8月10日		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
平川市 善光寺平	本年	7/5	24.5	16.2	40.5
	(平年差・比)	3日遅	(77%)	(88%)	(19%)
	平年	7/2	31.9	18.4	213.3
	前年	7/3	—	—	—

注) ①平年：は種期は平成29～令和4年の6か年の平均値、8月10日の各調査項目の値は平成29～令和3年の5か年の平均値（令和4年は大雨により調査できず欠測）

②品種：勇（前年は秀夏）

(2) 今後の留意点

- ア 生育状況を確認しながら適期に収穫する。
- イ 軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底するとともに、コナガ、アオムシなどの害虫の早期発見・早期防除に努める。

4 秋にんじん

(1) 生育状況

- ア は種期は平年並だが、7月中旬以降の高温・乾燥の影響で、生育は遅れている。
- イ 病害虫の発生は見られない。

表－４ にんじんの生育状況（8月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	8月10日				
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (mm)	根重 (g)
平川市 大木平	本年 (平年差・比)	6/20 (±0日)	22.7 (92%)	5.9 (95%)	14.5 (113%)	9.6 (84%)	3.2 (45%)
	平年	6/20	24.6	6.2	12.8	11.4	7.1
	前年	6/21	—	—	—	—	—

注) ①平年：は種期は平成9～令和4年の26か年の平均値、8月10日の各調査項目の値は平成9～令和3年の25か年の平均値（令和4年は大雨により調査できず欠測）

②品種：向陽2号

(2) 今後の留意点

- ア 黒葉枯病、ヨトウムシなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。
- イ 排水対策を徹底し、病気が蔓延しないように防除を行う。

5 ごぼう

(1) 生育状況

- ア 草丈、葉数ともに平年を上回っており、生育は順調である。
- イ 病害虫の発生は見られない。

表－５ ごぼうの生育状況（8月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	8月10日	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市 三沢	本年 (平年差・比)	4/28 (3日早)	127.7 (110%)	3.7 (132%)
	平年	5/1	115.7	2.8
	前年	5/11	105.2	2.6

注) ①平年：平成25～令和4年の10か年の平均値

②品種：柳川理想

(2) 今後の留意点

- ア 植溝が「穴落ち」した場合は、速やかに修復する。
- イ 黒斑細菌病、黒条病、アブラムシ類等の発生に注意し、防除を徹底する。

6 夏秋トマト

(1) 生育状況

- ア 津軽地域の4月下旬定植では、11段花房の開花期が平年より1日遅く、県南地域の5月上旬定植では、9段花房の開花期が平年より2日早く、生育はおおむね順調である。
- イ 7月中旬以降の高温・乾燥の影響で、落花や尻腐れ果、裂果が見られ、果実は小玉傾向である。
- ウ 病害は、灰色かび病、葉かび病、虫害は、アザミウマ類、タバコガ類の発生が見られる。

表－6 トマトの生育状況 (8月10日現在)

調査地点	年次	定植期 (月日)	5段果房		7段果房		9段果房		11段果房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 金木町	本年 (<small>平年差・比</small>)	4/28 (4日早)	6/21 (7日遅)	2.6 (104%)	7/6 (5日遅)	2.9 (100%)	7/19 (1日遅)	2.6 (100%)	8/3 (1日遅)	
	平年	5/2	6/14	2.5	7/1	2.9	7/18	2.6	8/2	2.0
	前年	4/25	6/10	2.8	6/26	1.2	7/12	3.2	7/29	1.6
三戸町 斗内	本年 (<small>平年差・比</small>)	5/10 (4日早)	7/1 (3日早)	2.5 (96%)	7/20 (2日早)	3.3 (143%)	8/9 (2日早)			
	平年	5/14	7/4	2.6	7/22	2.3	8/11	2.0	9/2	1.5
	前年	5/10	6/30	2.8	7/23	3.4	8/11	2.4	9/5	2.4

注) ①平年：五所川原市は令和3年度から設置場所・担当農家を変更し、令和5年度から苗を1本仕立から2本仕立てに変更したため、平年(H29～R2)、前年は参考値、三戸町は平成20～令和4年の15か年の平均値

②品種：五所川原市は桃太郎セレクト(台木：キングバリア)、三戸町はりんか409(自根)

(2) 今後の留意点

ア 温度管理等

(ア) 肩換気などにより適正な温度管理を徹底する。また、適切なかん水、肥培管理により草勢の維持に努める。

(イ) 9月以降は裂果の発生が多くなるので、土壌水分が極端に変化しないように水管理する。

イ 摘心

雨よけ栽培では、例年9月5日頃までに開花した花房が収穫できるので、開花直前の花房の上にある葉を2枚残して摘心する。

ウ 病害虫防除

灰色かび病、葉かび病、アザミウマ類の防除を徹底するとともに、タバコガ類、コナジラミ類の早期発見・早期防除に努める。

エ 大雨による浸水等の対策

(ア) 降雨により滞水している場合は、排水を徹底する。

(イ) 浸水・冠水した場合には、泥を清水で洗い流し、マルチの裾を上げて、株元を乾かし、浸水した果実は早急に取り除く。また、草勢の低下を防ぐため、摘果で着果負担を軽減する。

7 ねぎ

(1) 生育状況

ア 7月中旬以降の高温・乾燥の影響で、草丈、茎径とも平年を下回っており、葉先枯症が散見される。

イ 病害虫は、葉枯病、さび病の発生が見られる。

表－7 ねぎの生育状況（8月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	8月10日	
				草丈 (cm)	茎径 (mm)
十和田市 洞内	本年 (<small>平年差・比</small>)	1/20 (10日早)	4/1 (16日早)	96.0 (88%)	25.6 (94%)
	平年	1/30	4/17	109.7	27.2
	前年	1/20	4/11	104.6	28.6

注) ①平年：令和2～4年の3か年の平均値

②品種：夏扇パワー

(2) 今後の留意点

ア 管理

(ア) 追肥・培土は、生育の進み具合に合わせて適期に行う。なお、培土は、葉の分岐部の下までを目安に行う。

(イ) 軟腐病を回避するため、培土は天気の良い日の地温が低い早朝に行う。

(ウ) 最終培土は、収穫の30日前頃に行い、葉の分岐部まで丁寧に土を寄せ、軟白長30cm以上を確保する。

(エ) ほ場の停滞水は生育不良の原因となるため、排水対策を徹底する。

イ 病害虫防除

(ア) ベと病、葉枯病、軟腐病、さび病、黒斑病、アザミウマ類など病害虫の防除を徹底する。

花 き

1 夏秋ギク

(1) 今後の作業

ア 病害虫防除

白さび病の予防を行うとともに、アザミウマ類、ヤガ類等の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

イ 収穫

(ア) 2～3分咲きを目安に採花するが、出荷先により切り前が異なるため事前に確認する。

(イ) 涼しい時間帯に行い、切り口を乾かさないようにする。早朝に採花する場合は、朝露に濡れたまま収穫すると荷傷みの原因となるので乾いてから行う。

ウ 親株の管理

(ア) 収穫後の株を翌年の親株にする場合は、形質が優良で、病害に侵されていないものを残す。

(イ) 親株は地際から約10cmの高さで刈り込み、直ちに追肥し、土寄せする。追肥量は、1アール当たり窒素成分で0.2～0.3kgを目安とする。

エ 大雨による浸水・冠水等の対策

浸水・冠水などにより損傷を受けた場合は、病気が発生しやすくなるので、まん延しないよう、薬剤散布する。

【参考（お盆向け作型の収穫時期）】

新郷村は、観測ほが早期発らいの影響でかなり早い収穫となった。五所川原市は、高温の影響でやや遅れたが、お盆向け作型としては適期に収穫された。

害虫は、ハダニ類やアブラムシ類、アザミウマ類、ヤガ類等が散見される。病害の発生は見られない。

表－8 夏秋ギクの収穫時期（8月15日現在）

場 所	年 次	品種名	定植期	収穫期		
				始	盛期	終
新郷村	本年 (平年差)	精の一世	4月17日 (2日早)	7月22日 (14日早)	7月27日 (16日早)	7月30日 (22日早)
	平年	精の一世	4月19日	8月5日	8月12日	8月21日
	前年	精の一世	4月21日	8月10日	8月18日	8月29日
五所川原市	本年 (平年差)	岩の白扇	4月20日 (5日遅)	8月7日 (4日遅)	8月10日 (4日遅)	8月13日 (4日遅)
	平年	岩の白扇	4月15日	8月3日	8月6日	8月9日
	前年	岩の白扇	4月22日	8月12日	8月15日	8月17日

注) 平年は、新郷村が平成26～令和4年の9か年、五所川原市が平成30～令和4年の5か年の平均値だが、新郷村は令和2年、令和3年に担当農家を変更したため参考値となる。

2 秋ギク

(1) 生育状況

生育はおおむね順調である。

一部ほ場でアザミウマ類やヤガ類が散見される。

表－9 秋ギクの生育調査（8月10日現在）

場 所	年 次	品種名	定植期	草丈 (cm)	葉数 (枚)	備 考
五所川原市	本年 (平年差・比)	神馬	7月10日 (5日遅)	29.8 (77%)	15.7 (79%)	2本仕立て
	平年	神馬	7月5日	38.7	19.8	2本仕立て
	前年	神馬	7月8日	49.4	22.0	2本仕立て

注) 平年：五所川原市は平成22～令和4年の13か年の平均値

(2) 今後の作業

ア 芽かき

わき芽は、小さいうちにかき取る。

イ ビーナイン処理（施設栽培のみ）

花首の伸びやすい品種は、ビーナイン顆粒水溶剤等を発らい期に散布する。効果が不十分な場合には摘らい期に2回目の散布を行う。

ウ 温度管理

奇形花の発生を防ぐため、高温時には換気を十分に行い、必要に応じて循環扇や寒冷しゃ等を活用し、施設内温度を少しでも低く管理する。

エ 病虫害防除

白さび病の予防のほか、ヤガ類やアザミウマ類等の害虫が発生しやすい時期なので、早期発見・早期防除を徹底するとともに、ほ場周りの除草や残さの除去等、害虫が発生しにくい環境づくりに努める。

3 トルコギキョウ

(1) 今後の作業（これから収穫するトルコギキョウについて）

ア かん水

発らいまでは根の張りをよくするため、乾湿の差をつけて管理する。発らい後はしおれない程度にかん水を減らして軟弱徒長を防ぐ。

イ 温湿度管理

ハウス内が高温・過湿にならないように換気するほか、循環扇、寒冷しゃ等を活用し、適正な温湿度管理に努める。

ウ 側枝等の整理

不要な側枝は早めに摘み取る。また、頂花らい（1番花）も早めに除去し、上位節から発生する分枝の伸長を促す。

エ 病虫害防除

アザミウマ類やオオタバコガの発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

オ 収穫

涼しい時間帯に収穫し、速やかに鮮度保持剤による前処理を行う。

カ 大雨による浸水・冠水等の対策

浸水・冠水などにより損傷を受けた場合は、病気が発生しやすくなるので、まん延しないよう、薬剤散布する。

【参考（お盆向け作型の生育状況）】

- ・お盆向けの作型の収穫時期は8月第2週を収穫予定としていたが、中南地域では1週間～10日程度早まり、東青地域では予定通りとなった。
- ・病虫害は、一部ほ場でアブラムシ類やヨトウムシ類が散見された。

表-10 トルコギキョウの生育状況

場 所	年次	品種名	定植期	収穫始	収穫盛期	収穫終
青森市	本年	ひこ星	4月6日	7月20日	7月26日	8月1日
	前年	北斗星	4月13日	7月27日	8月3日	8月6日
黒石市	本年	ボンボヤージュスイートピンク	5月5日	8月1日	8月4日	8月6日
	前年	セラブリッチホワイト	4月27日	7月24日	7月29日	8月2日

注) ①青森市の平年値：本年から品種が変更されたため、平年値なし

②黒石市の平年値：前年から担当農家に変更されたため、平年値なし

畑作・野菜・花き生産情報第6号は令和5年9月20日発行の予定です。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります。
緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！
効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎令和5年度青森県農薬危害防止運動展開中（6月1日～8月31日）

- 1 使用する際は、必ず最新の登録内容を確認し、農薬は適正に使用しましょう。

○農林水産省「農薬情報」

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壌くん煙剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「農薬ではない除草剤（農薬ではない、非農耕地専用などと記載）」があるので、注意しましょう。
- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
- 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。
堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。
- 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月空けましょう。
- 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai_eiseikanri.html



◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

自然災害や価格下落など、農業経営を取り巻く様々なリスクに備えるため、自分の経営にあった農業保険（国などが掛金の一部を補助する公的保険制度）を活用しましょう。

1 自然災害リスクをカバーしたい方

農業共済（農作物共済・畑作物共済・園芸施設共済）は、全ての農業者を対象に、米、麦、畑作物、農業用ハウスなどが自然災害によって受ける損失を補償します。

※ ナラシ対策や野菜価格安定制度等を利用することもできます。

2 様々なリスクをカバーしたい方

収入保険は、青色申告を行っている農業者を対象に、自然災害や価格低下だけではなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償します。

◎野菜価格安定制度を利用している野菜生産者の皆様へ

現在、当分の間の特例として、初めて収入保険に加入される方は、収入保険と野菜価格安定制度を同時利用（2年間）することができます。

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

◎秋の農作業安全運動展開中です（8月15日～10月31日）

秋の農繁期を迎えるに当たり、農業機械等による事故を防止するため、県では、「秋の農作業安全運動」を展開しています。

農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声がけ！安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

<農作業安全のポイント>

- 1 作業環境に危険な箇所がないか事前に確認し、改善・整備を行いましょ。う。
- 2 日中の気温の高い時間帯を避けて作業を行うほか、水分や塩分の補給、こまめな休憩を取りながら、無理のない作業を心がけましょ。う。

- 3 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけ合うとともに、万一の事故に備えて、労災保険や農機具共済などの保険に加入しましょう。
-

連絡先	農産園芸課
	稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480

	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485
